

2020年卒「リクルーターとの接触経験」

2019年9月調査

人手不足を背景に、企業の採用意欲は非常に旺盛な状態が続いている。そんな中、学生と直接接点をもつリクルーターの活用が進んでおり、その果たす役割に変化が見られる。

ディスコでは、今年就職活動を行った学生を対象に、リクルーターとの接触経験について調査をし、リクルーターの印象や就職活動への影響度合い等を分析した。

■ 目次

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| [1] リクルーターとの接触の有無 | [5] リクルーターと接触したきっかけ |
| [2] 接触したリクルーターの数 | [6] リクルーターと接触して良かったこと／
良くなかったこと |
| [3] リクルーターとの接触があった業界 | [7] 志望度への影響 |
| [4] リクルーターと接触した時期 | |

■ 調査概要

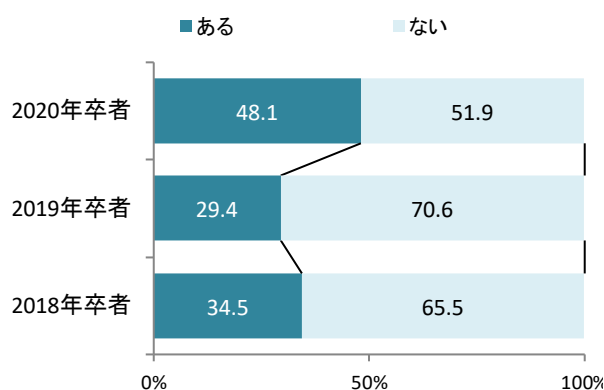
- 調査対象：2020年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
 回答人数：894名
 調査時期：2019年9月2日～6日
 調査方法：インターネット調査法
 サンプルング：キャリアス就活2020 学生モニター

[1] リクルーターとの接触の有無

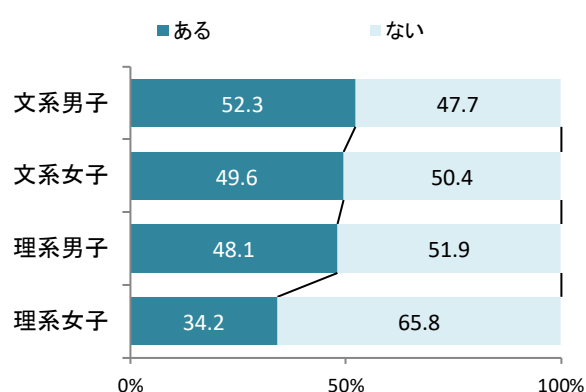
2020年卒予定者のうち、就職活動中にリクルーターとの面談経験が「ある」と回答した学生は約半数を占めた（48.1%）。企業のリクルーター活用が一気に進んだ様子が読み取れる。

文理男女別に見ると、リクルーターとの面談経験がある学生の割合が最も高いのは文系男子で52.3%。僅差で、文系女子（49.6%）、理系男子（48.1%）と続き、いずれも約半数を占める。一方、理系女子は34.2%と比較的低く、3割台にとどまった。

リクルーター面談の経験

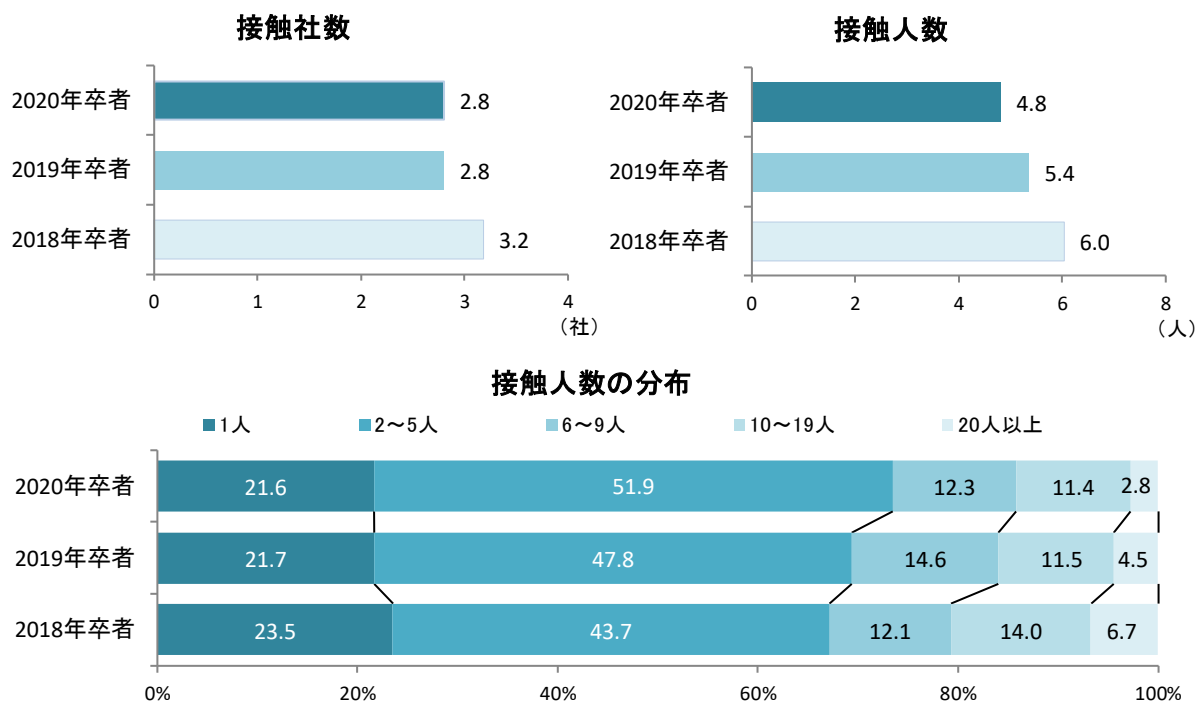


リクルーター面談の経験／文理男女別



[2] 接触したリクレーターの数

リクレーターと接触した学生に、その人数や企業数を尋ねた。リクレーターと接触した企業の数は一人数あたり平均 2.8 社、人数は 4.8 人。人数の分布を見ると、「2~5 人」の割合が増加しており、10 人以上の割合が減少している。接触経験を持つ学生の割合は高まったが、裾野が広がったことで学生一人数あたりの接触規模は縮小した。



[3] リクレーターとの接触があった業界

リクレーターとの接触を持った企業の業界をすべて選んでもらった。全体で最も多かったのは「銀行」(21.2%・前年1位)、次いで「自動車・輸送用機器」(13.5%・前年3位)と続く。前年2位の保険(9.5%)は5位に下がった。文理別に見ると、文系のトップは「銀行」で約3割と集中している(29.2%)。理系のトップは「自動車・輸送用機器」(16.7%)。

リクレーターの導入状況は業界によって異なるため、志望する業界により学生のリクレーター面談経験率も違ってくる。

リクレーターとの接触が多い業界 TOP10

※全 40 業界 (%)

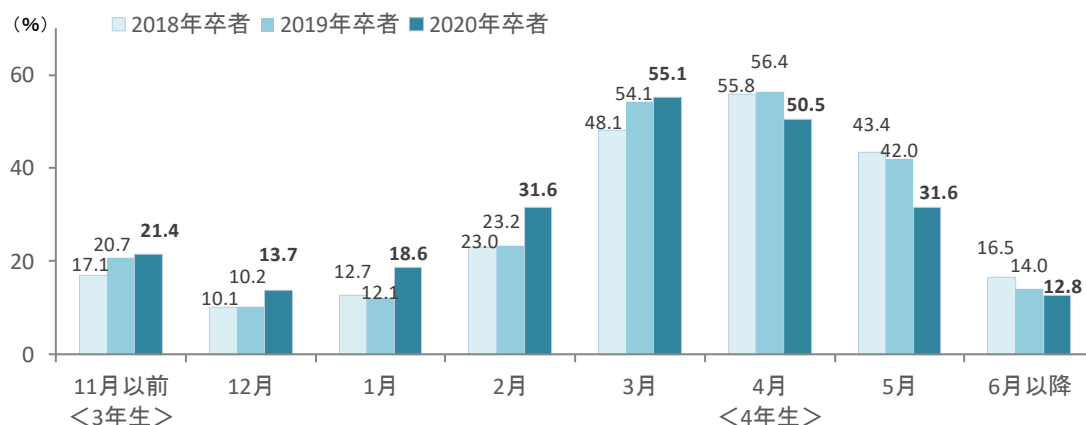
全体		文系		理系	
1	銀行 ① 21.2	1	銀行 ① 29.2	1	自動車・輸送用機器 ① 16.7
2	自動車・輸送用機器 ③ 13.5	2	保険 ② 13.9	2	情報・インターネットサービス ⑦ 14.1
3	建設・住宅・不動産 ⑦ 12.8	3	建設・住宅・不動産 ⑪ 12.8	3	電子・電機 ② 12.8
4	情報・インターネットサービス ⑭ 10.5	4	鉄鋼・非鉄・金属製品 ⑦ 12.4		建設・住宅・不動産 ③ 12.8
5	保険 ② 9.5	5	自動車・輸送用機器 ⑤ 11.7	5	運輸・倉庫 ④ 9.6
6	鉄鋼・非鉄・金属製品 ⑨ 9.3	6	エネルギー ⑨ 9.1	6	人材紹介・人材派遣 ⑧ 9.0
7	電子・電機 ⑤ 8.8	7	人材紹介・人材派遣 ⑪ 8.8	7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑥ 8.3
	人材紹介・人材派遣 ⑬ 8.8	8	情報・インターネットサービス ⑩ 8.4	8	機械・プラントエンジニアリング ⑬ 7.7
9	エネルギー ⑫ 8.1	9	素材・化学 ⑥ 6.9		調査・コンサルタント ⑰ 7.7
10	運輸・倉庫 ④ 7.4	10	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑨ 6.6	10	医薬品・医療関連・化粧品 ⑱ 7.1
			電子・電機 ⑪ 6.6		銀行 ⑬ 7.1

※○の中の数字は前年調査の順位

[4] リクルーターと接触した時期

リクルーターと接触した時期(月)をすべて挙げてもらった。2020 年卒者で最も多いのは「3 年生の 3 月」(55.1%)で、「4 年生の 4 月」も 50.5%と過半数を超えている。3 カ年で比較すると、いずれも「3 年生の 3 月」と「4 年生の 4 月」のポイントが高く、採用広報開始からの 2 カ月間がボリュームゾーンである点に変わりはないが、2020 年卒者は 2 月以前の早い時期のポイントが増加しているのが目立つ。

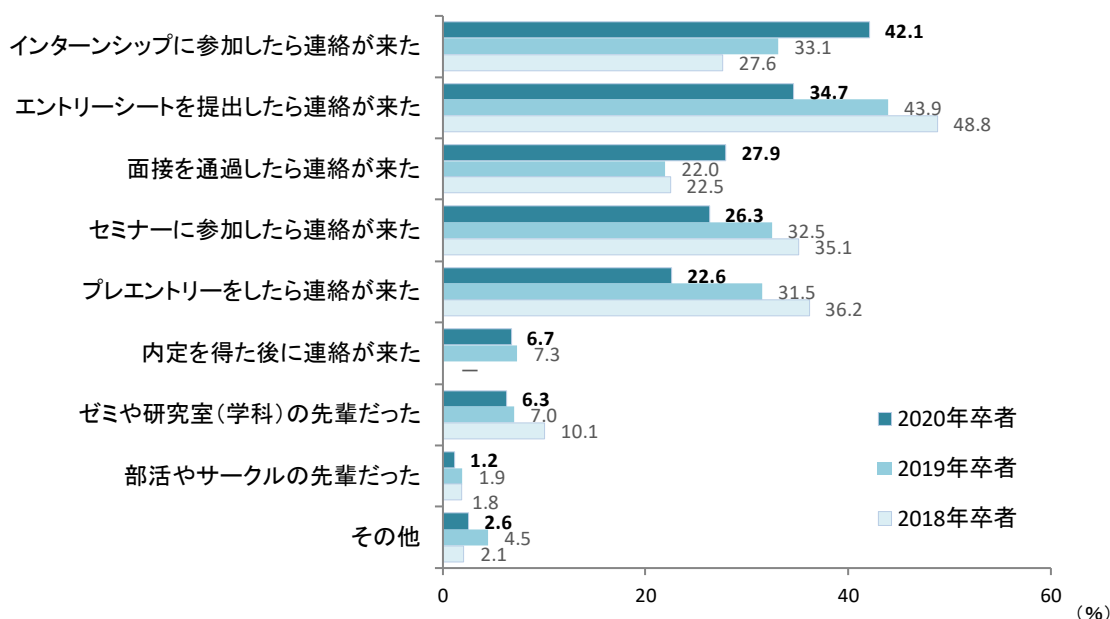
リクルーターと接触した時期



[5] リクルーターと接触したきっかけ

リクルーターと接触したきっかけを尋ねた。「インターンシップに参加したら連絡が来た」(42.1%)が最も多く、「エントリーシートを提出したら連絡が来た」(34.7%)、「面接を通過したら連絡が来た」(27.9%)と続いた。3 カ年で見ると、「インターンシップに参加したら連絡が来た」は 2018 年卒者から 14.5 ポイント増と大幅に増加した。一方、「エントリーシートを提出したら連絡が来た」は 14.1 ポイント減と大幅に減少している。接触時期が早まっているのは、こうしたことが背景にあるのだろう。

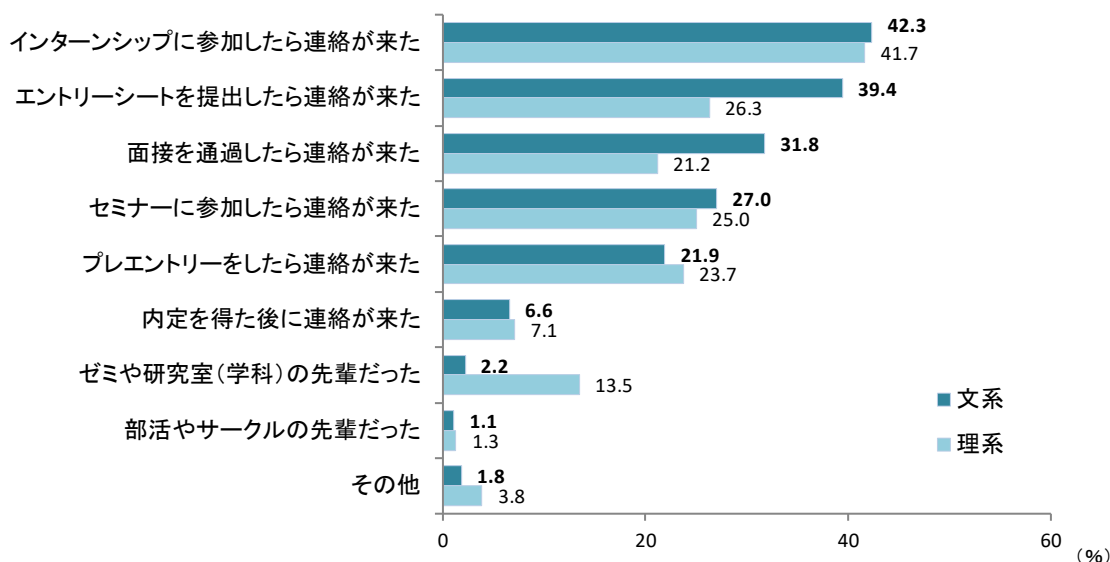
リクルーターと接触したきっかけ



リクルーターと接触したきっかけを文理別に見てみよう。最も多いのは文理ともに「インターンシップに参加したら連絡が来た」で 4 割強。文系は以降、「エントリーシートを提出したら連絡が来た」(39.4%)、「面接を通過したら連絡が来た」(31.8%)と続き、それぞれ理系より約 10 ポイント高い。

理系のほうが高いのは「ゼミや研究室(学科)の先輩だった」だが、1 割程度に留まる(13.5%)。研究室の繋がりが強い理系といえども、インターンシップをきっかけとした接点のほうが圧倒的に多いのが実態のようだ。

リクルーターと接触したきっかけ／文理別

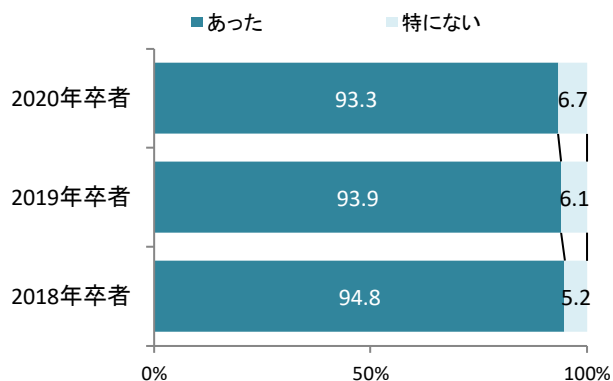


[6] リクルーターと接触して良かったこと／良くなかったこと

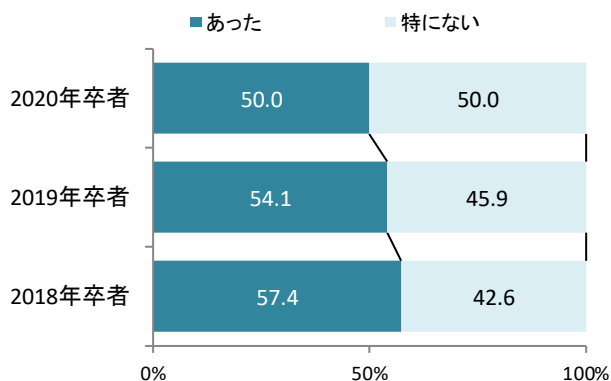
リクルーターと接触して良かったことがあるという学生は 93.3%で、大半が好意的に捉えていることがわかる。この3カ年、9 割を超える高い割合を維持している。

一方、良くなかったことがあるという学生はちょうど半数(50.0%)。この割合は年々減少しており、リクルーターにマイナスの印象を抱くケースは減っているようだ。

リクルーターと接触して「良かったこと」の有無

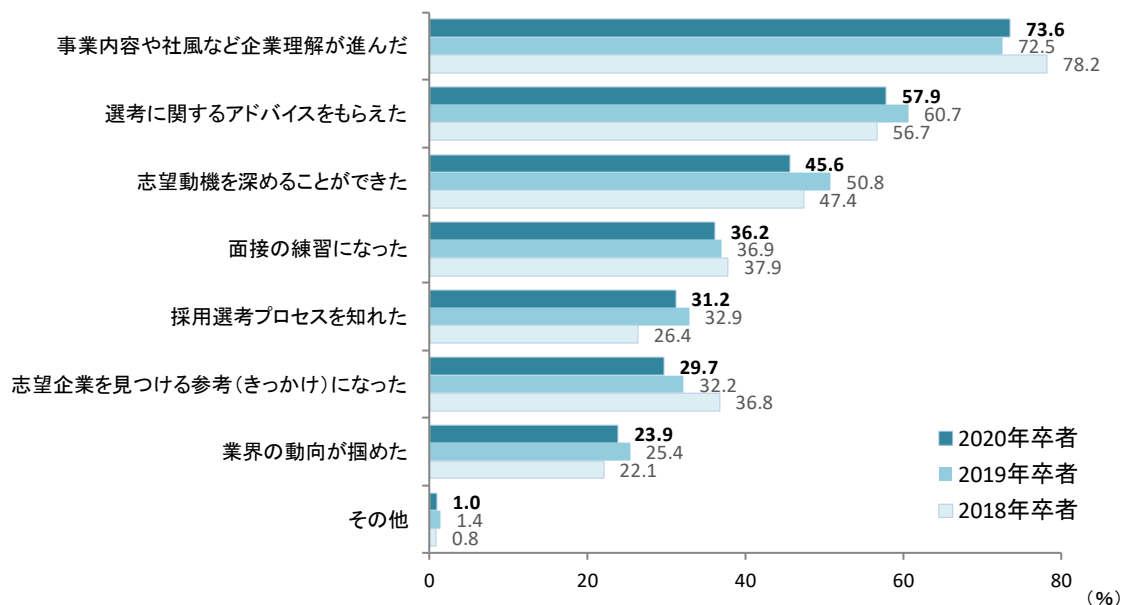


「良くなかったこと」の有無



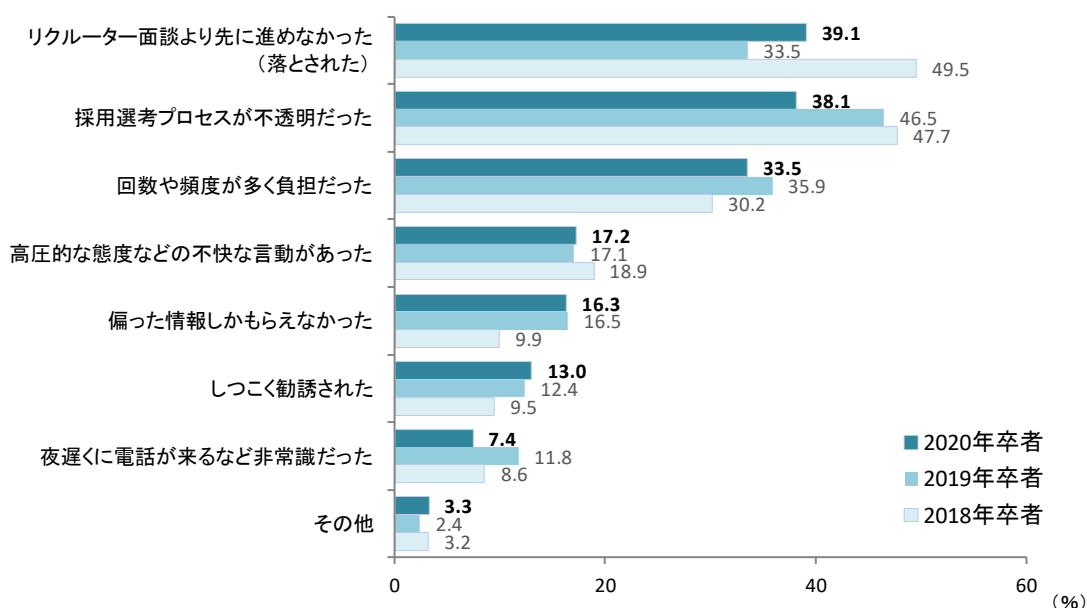
リクルーターと接して良かったことを複数回答で尋ねると、「事業内容や社風など企業理解が進んだ」が最も多く(73.6%)、「選考に関するアドバイスを受けた」(57.9%)、「志望動機を深めることができた」(45.6%)が続いた。既存の情報だけでは理解が不十分な部分を補う役目を果たしていることがわかる。

リクルーターと接触して「良かったこと」



一方、「良くなかったこと」で最も多いのは「リクルーター面談より先に進めなかった」で、約4割(39.1%)。以降、僅差で「採用選考プロセスが不透明だった」(38.1%)、「回数や頻度が多く負担だった」(33.5%)が続く。「先に進めなかった」と「採用選考プロセスが不透明」は、この2年でいずれも約10ポイント減少した。本選考前のスクリーニング的な側面が強かったリクルーターの役割が、学生の企業理解促進や選考への動機づけといったフォローの意味合いに変化したことで、リクルーターにマイナスの印象を抱くケースが減っているのだろう。

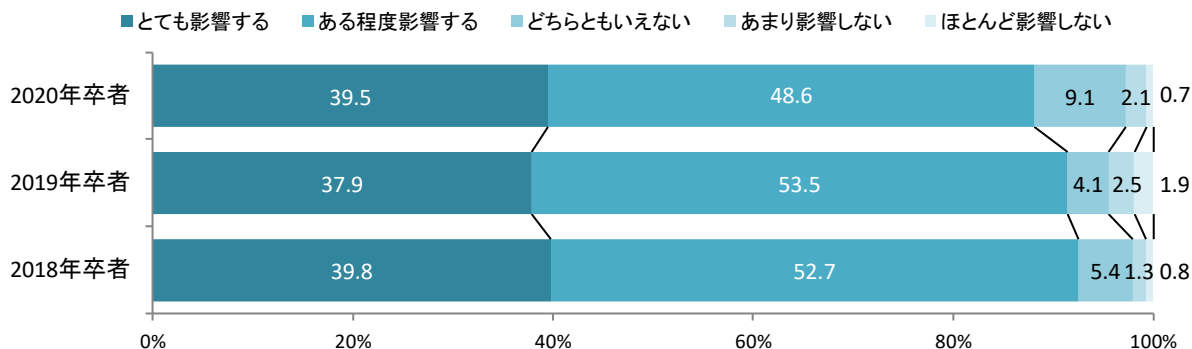
リクルーターと接触して「良くなかったこと」



[7] 志望度への影響

リクレーターの印象が、その企業への志望度にどの程度影響するのかを尋ねた。「志望度に影響がある」と回答した学生は、「とても影響する」(39.5%)と「ある程度影響する」(48.6%)をあわせて9割弱(計88.1%)だった。「志望度に影響がある」という学生の割合はやや減少しているものの、リクレーターの果たす役割は依然として大きいと言える。

リクレーターの印象による志望度への影響



■ 印象的だったリクレーター

- 学生からの連絡や相談にも素早く応じてくれ、他のOBの紹介や、面接前にカフェテリアでアドバイス、激励を送ってくれるなど、とても親身に対応してくれた。 <文系男子>
- 会社の良いところはもちろん、その人が思う良くない部分も教えてくれた。 <理系女子>
- 求人票からは読み取れないリアルな働き方を教えてくれるのは、とても有難かった。 <文系男子>
- 学生の身になって相談に乗ってくださり、他社との比較でも他社をけなすことなく肯定的な話し方で、違いを教えてくれた。 <理系男子>
- ラフな格好で来ていいよと言われて行ったら、リクレーターもラフな格好で来ていて、堅苦しさを感ぜずに話せてよかった。 <文系男子>
- 年齢が近く、なんでも相談しやすかった。会社のLINEアカウントがあり、メールより気軽に相談しやすかった。 <文系男子>
- 自社の待遇のよさや、楽な部分ばかりを紹介する人は、自分の仕事に誇りを持って働いているのか、少し疑ってしまいました。 <文系女子>
- うちの会社に来るべきという雰囲気を出し続けられていたのは、少し悪い印象だった。 <理系男子>
- 前日に「明日の午前中に来られますか」といった急な連絡が多く困った。 <文系女子>
- 辞退しようとする引っぱりが強く、連絡回数も増えた。 <理系男子>
- 愛社精神が強すぎた。辞退の時に理由をしつこく聞かれた。 <文系女子>
- 積極的に話を聞いてくれていい雰囲気だったのに、サイレントで落とされたこと。落とすなら落とすなりに連絡が欲しいし、何がいけなかったのかまで明確にして欲しい。 <文系男子>
- リクレーター面接に呼ばれたが、呼ばれた時間に受付に誰もおらず、時間が過ぎても電話も繋がらなかったことがあった。しばらくしてリクレーターの方が来て謝られたが、大手の割に人手不足なのかなという印象になった。 <理系女子>
- どんな社員がいるかも判断軸にしていると話したら、人で決めるのはよくないとひたすら説教された。 <文系女子>